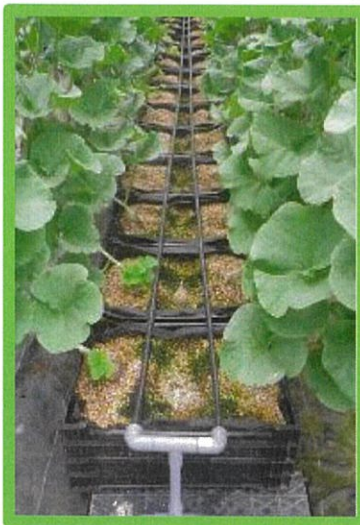


「養液土耕(隔離)栽培システムのすすめ」

「大幅な省力化」「土壌障害対策」がはかれます!!



<メロン>



<トマト>

●養液土耕栽培とは？

作物の生育状況にあわせて、必要な水分・養分を自動でかん水・施肥する栽培方法です！

●メリット

- ① 自動かん水・施肥により、省力化（夏場のハウス内作業時間の大幅短縮等）がはかれる！
- ② 均一にかん水・施肥されるため、生育も均一に！
- ③ 隔離栽培により 土壌病害を回避できる！畝立ても不要！
- ④ 8系統分の液肥制御ができ、液肥量・倍率は時間および系統独立で設定可能！（※OAT社製の場合）など。

▲デメリット

- ① 初期投資・ランニングコストが発生する。
- ② 水稻育苗ハウスを活用する場合、コンテナの設置・撤去等の労力がかかる。 など。

●導入事例紹介

(1) 生涯農業に向けたシステム活用（トマト）



75歳を超えた生産者も、このシステムを活用していきいきとトマト栽培に取り組んでいます！かん水や施肥等、夏場のハウス内での作業が少ないため、まだまだ継続できるとのことです！

(2) 果樹栽培でも利用可能（シャインマスカット）



トマトやきゅうりだけではなく、果樹での栽培も可能です！ハウスの側面にコンテナを設置して、ハウス上部から反対側面に向かって誘引します。写真のように立派な果実が実ります！

●初年度費用はどのくらい？

以下条件での、初期導入費参考事例。

- ・栽培面積：約 360 m²(間口 7.2m × 奥行 50m 1 棟)
- ・栽培用コンテナ：354 個(118 個 × 3 列)

項目	概算費用(税抜)
パイプビニールハウス	既存施設利用
養液土耕栽培システム (TT25Aを購入した場合)	450,000円
養液土耕専用培土	310,000円
原液・原水タンク、点滴チューブ等	290,000円
栽培用コンテナ	50,000円
配管部材・工事一式	200,000円
初年度費用	1,300,000円

TT25A ※OAT 社製



※上記事項は参考であり、面積・規模等により、機器構成・費用が異なります。

ＪＡ全農にいがたではＨ２３年度以降、養液システムの普及拡大に取り組んでおり、県内で約２００台が導入されています。養液土耕栽培システムに少しでも興味のある方は、まずはお近くのＪＡまでご相談ください！！

(園芸部 園芸総合課)